

青春スクロール

母校群像記

進学校化目指し発破／校訓「自主自律」

1950年、平塚江南(以下、江南)は、共学化に伴い、約850人の学校に96人の男子を迎えた。共学後の最初の校長直井要は、進学校化を目ざし、生徒たちに発破をかけた。

「湘南を追い越せ、が口ぐせ」と懐かしむのは、博報堂DYMメディアパートナーズ元社長佐藤孝(74、58年卒)。「真昼の星をお目にかけましょう」(全日空)などで知られるコピーライターの草分け。毎週ある「火曜テスト」や順位の張り出しに反発しながらも、「自分た



平塚江南高校②

ちが歴史を作る」と頑張った。日本テレビ元社長久保伸太郎(69、63年卒)も「勉強ばかりさせられた」。

直井が退任する63年入学組(66年卒)には富士通元副会長伊東千秋、NTTデータ元社長山下徹、味の素のペルー法人元社長酒井芳彦(いずれも66)が



海外ビジネス担当として50カ国以上を回った経験で講演に引っ張りだこの伊東



社長室から富士山が見え、「高校の渡り廊下から見た富士山を思い出した」と語る山下

いる。全国模試で常に上位だった伊東は、東大で開かれた学力テストに、同級生40人を率いて東海道路線を通ったのが思い出だ。「戦争で焼けた平塚には、同じような貧しい家はかりで子どもが唯一の財産。どの親も教育熱心だった」

ただ、「詰め込み教育とは違



進出企業に海外危機管理の酒井

う」と山下。高1の世界史の授業で教師はチャイコフスキーの「1812年」のレコードをかけ、ナポレオンのロシア遠征敗退を解説してくれた。「学問とはこういうものかと、感動で震えた」。味の素で26年間海外勤務した酒井は96年、ペルー日本大使館人質事件に遭い、武装ゲリラに約4カ月拘束された。江南時代に徹底的に勉強した英語をはじめ、その後学んだ語学が役立った。人質生活の支えは妻や娘との文通だったが、スペイ



平塚駅西口の本店に立つ芦川(左)

ン語しか許されなかった。「語学は必ず身を助ける。これからの若者には内向きにならず、ぜひ習得に努力して欲しい」

校訓「自主自律」の発案も直井。「自らの尊重と、律する精神とが相まって人格が完成する」とし、朝礼などで「Stand on your feet」と呼びかけた。

伊東たちの同期芦川浩(66)はフランス菓子「葦」社長。東京

学校史によると、新校名も直井ら当時の教員が話し合っ

外大に進むも、学生運動に関わり中退。家業を継ぐため戻った芦川の心には「自主自律」があった。「優秀な友人たちに負けない成果を出す」。「葦」は湘南各地の駅ビルなどに10店舗を展開、同窓生がこぞって手土産にする湘南ブランドになった。